

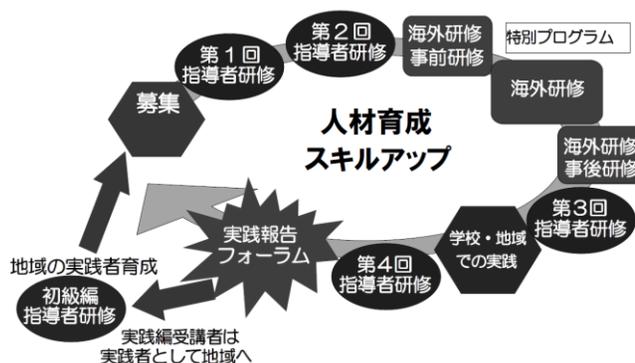
# I. 教師海外研修の概要

## ● 目的とねらい

### (1) 事業の目的・教師海外研修の目的

開発教育に熱心に取り組んでいる小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等の教師（以下「教師」という。）を対象に、指導者研修等の国内研修および JICA が支援している国への教師海外研修を有機的に組み合わせた上で実施し、各国の置かれている現状と日本との関係（国際協力を含む）への理解を深め、その成果を、次代を担う生徒の教育に役立てて頂くこと、また、研修参加後、JICA 国内機関と協力し、教育現場で開発教育を推進する中核となるような人材を育成することを本事業の目的としている。

この事業の目的を踏まえた教師海外研修の目的を次のとおり設定している。



海外研修のテーマを「持続可能な開発」とし、教師の皆さんが、パラグアイの暮らしや社会、JICA の協力活動等の体感を通じて、人類の多様性、心の同一性、問題点、課題を解決するために必要なことなどを調べ考え、その経験を共通の教材にし、日本の児童・生徒への開発教育・国際理解教育に活かしてもらうことを目的とする。

#### パラグアイ現地研修の学びの視点

1. 訪問国に肯定的に出会う	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 世界の多様性を知り、多様な人やものと出会うこと・交流することの楽しさを伝える。</li> <li>◇ 多角的に肯定的に相手国と出会い、人の顔が見え、つながりを感じられるようになる。</li> </ul>
2. 日本と訪問国とのつながりや同一性を理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 地球規模で進むグローバル化の恩恵と課題を理解し、日本とパラグアイとのつながりに気づき、つながりを築く。</li> <li>◇ 国や人の多様性だけではなく、共通するものがあること（同一性）を理解する。</li> </ul>
3. 共に考え・共に越える共通の課題の解決をめざす	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 相手を知ることで自国（自分）をふりかえり、互いの誇りや課題を確認する。</li> <li>◇ 共に学びあい、知り、考え、気づき、よりよい未来を共に築く入り口を提供する。</li> </ul>

## (2) 開発教育指導者研修（実践編）全体のねらい

教師海外研修は、JICA 中部が行う開発教育支援事業のうち、下記内容の「開発教育指導者研修（実践編）」（以下「指導者研修」という。）の特別プログラムとして位置づけ、実施するものである。

教師海外研修受講者は、全4回の指導者研修および開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム2017（以下、実践報告フォーラム2017）に参加し、パラグアイやエチオピアで得たものを同研修にも還元し、相互に学び合うことをねらいとしている。

### テーマ「ESD（持続可能な開発のための教育）とグローバル人材」

- 開発教育・国際理解教育の目的・内容・進め方と、ESDを始めとする他の教育との関連性を理解する。
- 「知り・考え・気づく」場の提供と、「自己肯定感」「コミュニケーション力」「参加・協力」の力を育てることを通して、人の行動変容を支える「参加型」についての理解を深め、習熟する。
- 人がよりよく学び、よりよく変わることにより添う「ファシリテーターの役割」とそのための手立てを確認し、習熟する
- 3回までに学んだことを基に、各自の現場で開発教育・国際理解教育のプログラムを実践し、その成果と課題を第4回に持ち寄り共有し、よりよい質の教育（BQOE<sup>※</sup>）につなぐ。
- 1年間に及ぶ本研修の成果を、仲間と共に一般の人々に向けてフォーラムで発表することを通して、次なる担い手を増やし、「学びの好循環」を作る。

※BQOE…Better Quality of Education

#### ◇ 第1回：『開発教育・国際理解教育のめざすもの』

- ① 研修の全体像を理解し、各自の参加の目的をふりかえり、共に学び合う仲間同士知り合う。
- ② グローバル化した世界の現状と課題を共有し、自分と世界、自分と社会課題とのつながりに気づく。
- ③ 世界共通のビジョンSDGsに関する理解を深め、開発教育・国際理解教育の必要性を確認する。

#### ◇ 第2回：『開発教育・国際理解教育にできること』

- ① 開発教育・国際理解教育が扱う5つの柱について理解する。
- ② 「多様性」「同一性」「わたし・あなた・みんなのつながり」についての学び方を習得する。
- ③ 課題を共に越えるために必要なスキルとスキルビルディングについて学ぶ。

#### ◇ 第3回：『開発教育・国際理解教育のすすめかた』

- ① 流れのあるプログラムの作り方について学び、参加型手法を習熟する。
- ② 実際にプログラムを作り、ファシリテーターとしてプログラムを実施する練習をする。
- ③ ファシリテーターの役割とよりよい参加型の進め方についてポイントとなることを確認する。

#### ◇ 第4回：『開発教育・国際理解教育をつなげよう』

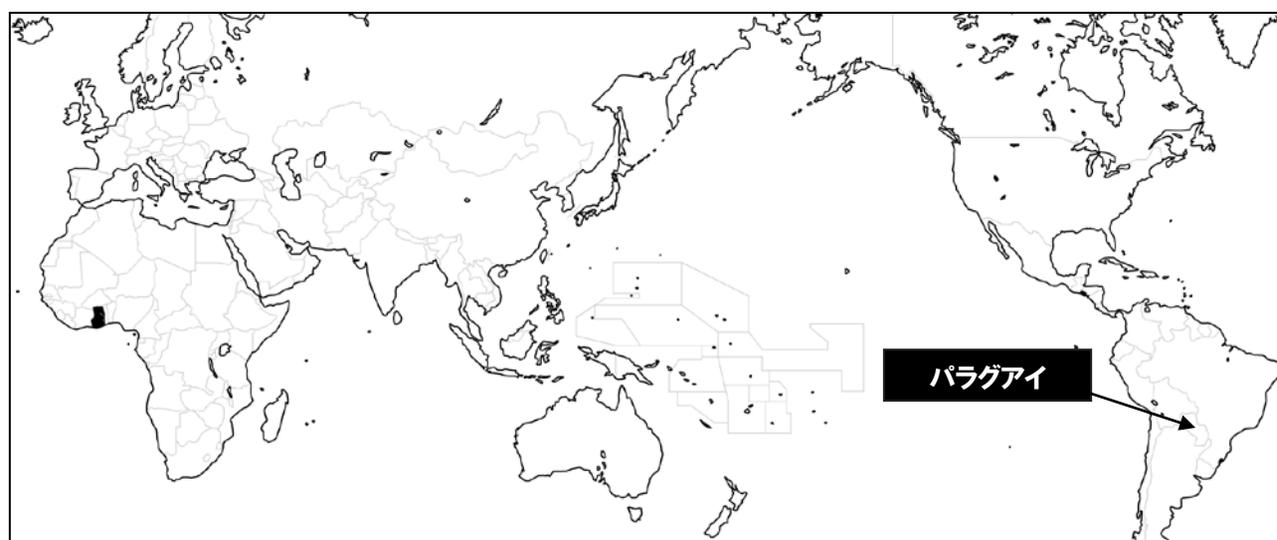
- ① 第3回以降、研修での学びを基にした各自の実践を共有する。
- ② 1年間を通じた研修の成果を共にふりかえる。
- ③ 研修成果と実践を一般市民に向けて参加型で提供し、次へとつなぐ準備を行う。

#### ◇ 実践報告フォーラム2017『ヒントが見つかる！仲間に出会える！』

- ① 【受講者】 実践報告、モデルプログラムのファシリテーターと参加者との意見交換を通して、実践の自己確認、総括を行い、ネクストステップへの意欲を高める。
- ② 【参加者】 実践者の成果と課題を共有し、自らの実践のヒントとネットワークを得てもらう。
- ③ 【主催者】 国際理解教育・開発教育を推進し、研修事業の次の参加者を広げる。

## ● 派遣国と訪問先

### (1) 派遣国 (パラグアイ)



### (2) 現地研修における訪問先

パラグアイの現地研修における現地スケジュールと訪問主要都市地図を P.4~5 に示した。

訪問先の選定にあたっては、JICA、運営委託先である NIED・国際理解教育センター、現地研修同行ファシリテーターを交えて検討を行った。

手順としては、現地研修の学びの視点を満たす主要テーマを設定し、各国の概要、過年度の研修の訪問実績および現在の JICA の活動を踏まえ、在外事務所と調整しながら、最終的な主要テーマを下表のとおり設定し、それに沿った訪問先に決定した。

学びの視点ごとの主要テーマ

学びの視点	主要テーマ
1. 訪問国に肯定的に出会う	A 人々の暮らし B 学校と子どもたち C 自然・文化
2. 日本と訪問国とのつながりや同一性を理解する	D 日本との貿易 E 日本人の移民・協力
3. 共通の課題について共に考え・共に越える	F 格差是正 G 持続的経済開発

パラグアイ現地研修の訪問スケジュール

期日	訪問先	研修場所等
7/25 (月)	21:20 中部国際空港発 - (EY889/北京経由/14h10m) →	機内
26 (火)	06:30 アブダビ着(乗継2h05m)→08:35発 - (EY191/15h00m) → 16:35 サンパウロ着(乗継5h55m)→22:30発 - (JJ8361/シウダ・デル・エステ経由/3h16m) →	機内、空港内
27 (水)	00:46 アスンシオン着 →ホテル泊 ① JICAパラグアイ事務所ブリーフィング@ホテル 10:30~ ・陸路(アスンシオン←→グアランバレ 1h) ② 【ボラ】 青年海外協力隊(障害児・者支援)活動/サン・ミゲル特殊教育センター (校長との意見交換、隊員活動視察、子どもたちとの交流) ③ 【ボラ/無償】 青年海外協力隊(柔道/バドミントン/レスリング/ウェイトリフティング)活動/スポーツ庁訓練センター (隊員活動視察、隊員とのワークショップ)	アスンシオン ↓↑ グアランバレ
28 (木)	・陸路(アスンシオン→コロネル・オビエド 3.5h) ④ 【技協】 地域と歩む学校づくり支援プロジェクト/コロネル・オビエド市教員養成校 (施設見学、教官との意見交換、PCIコースの研修視察、教員との意見交換) ・陸路(コロネル・オビエド→イグアス 3.0h 昼食込)	アスンシオン ↓ コロネル・オビエド ↓ イグアス
29 (金)	⑤ 【技協】 イグアス湖流域総合管理体制強化プロジェクト (プロジェクト説明、小農家訪問) ⑥ イグアス日本人会 (日系人居住区/被災地豆腐支援事業説明、畑・採石場見学など)	イグアス
30 (土)	⑦ イグアス日本語学校 (朝礼見学、授業視察、模擬授業・交流、現地教員との意見交換) ⑧ モンダウの滝 ⑨ パラグアイ人宅でのホームステイ 15:30~	イグアス
31 (日)	⑨ パラグアイ人宅でのホームステイ ~13:00 ・陸路 (イグアス→ビジャ・リカ 3h) ★中間ふりかえりミーティング	イグアス ↓ ビジャ・リカ
8/1 (月)	⑩ 【ボラ】 青年海外協力隊(看護師)活動/パラシオ・デ・フスティシア保健ポスト、 ドン・ボスコ・サレシアノ高校 (活動説明、高校での健康講習会視察、生徒と交流) ・陸路 (ビジャ・リカ→イタクルビ 3h) ⑪ 【ボラ】 青年海外協力隊(小学校教諭)活動/メルセデス・ミルトス小学校(幼~中3) (学校施設見学、現地教員及び隊員の授業見学、子どもとの交流、現地教員との意見交換) ・陸路 (イタクルビ→イタウグア 1.5h)	ビジャ・リカ ↓ イタクルビ ↓ イタウグア
2 (火)	⑫ ニヤンドウティ工房 (糸で編む蜘蛛の巣という意味があるレース編み) ・陸路(イタウグア→アスンシオン 1.5h ) ⑬ 【技協】 小規模ゴマ栽培農家支援のための優良種子生産強化プロジェクト ⑭ 白沢商工株式会社 (日系人ゴマ生産者/パラグアイでのゴマ生産歩み説明、工場見学)	イタウグア ↓ アスンシオン
3 (水)	⑮ 【ボラ/無償】 シニア海外ボランティア(電気・電子機器)活動/カルロス・アントニオ・ロ ペス職業訓練校 (表敬、施設見学、授業視察、生徒との交流、教員との意見交換) ⑯ アスンシオン市内見学・教材収集 (コロ通り、露店・本屋) ⑰ 在パラグアイ日本大使館 (表敬) with JICA東北 ⑱ JICAパラグアイ事務所関係者 & JICA東北受講者との懇親会@アルパ・ロガ	アスンシオン
4 (木)	★全体ふりかえりミーティング ⑲ JICAパラグアイ事務所報告会 ⑳ ランパレの丘 16:40アスンシオン発 - (JJ8141/2h05m)→19:55サンパウロ着(乗継2h05m)→22:05 -	アスンシオン 機内、空港内
5 (金)	(EY190/14h20m)→ 19:25 アブダビ着(乗継2h05m)→21:30発 -	機内、空港内
6 (土)	- (EY888/北京経由/12h20m) →14:50 中部国際空港着 (解散)	機内

注:ボラ…JICAボランティア、技協…技術協力プロジェクト、無償…無償資金協力

パラグアイ現地研修の訪問先主要都市



## ● 募集と研修受講者

### (1) 応募資格と参加条件

①～③を募集資格とし、④～⑩をすべて満たす者を参加資格とした。

- ① 応募および研修参加時点で愛知県、岐阜県、三重県、静岡県の国公立、私立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校、特別支援学校の教員または教育委員会の指導主事等であること。
- ② 所属する学校の校長もしくは教頭（教育委員会であれば所属長）の推薦があること。
- ③ 原則、JICA が実施している教師海外研修、ボランティア、専門家、国際協力レポーター（ODA 民間モニター）等 JICA から海外に派遣された経験がないこと。
- ④ 教師海外研修の趣旨・目的を十分理解し、同研修の実施および以後 JICA が実施する開発教育支援事業に協力可能であること。
- ⑤ 授業やクラブ活動で開発教育を実践していること、また今後実践する予定にあること。
- ⑥ 国内で実施される研修・説明会および海外研修の全行程に参加可能であること。
- ⑦ 派遣国の事情（道路状況や衛生環境等）を勘案した上で、全研修行程に参加するに耐える健康状態であること。
- ⑧ 帰国後、所定の期日内に海外研修報告書を提出すること、また本研修の定めた期間内に所属校において授業実践を行い当該授業の実践報告書を提出すること、且つこれら提出物を報告書冊子や JICA ウェブサイトなどで一般公開されることに同意すること。
- ⑨ 本研修の事前および事後連絡における効率化のため、パソコンメールアドレスでの連絡が可能なこと。
- ⑩ 参加者メーリングリストでの情報共有に賛同いただけること。

### (2) 選考

書類審査および面接審査を行い、最終選考の結果、パラグアイ受講者 8 名を決定した。

### (3) 研修受講者

◇パラグアイ 8 名の属性

- |   |  |
|---|--|
| { | 性別：女性 7 名、男性 1 名                       |
|   | 年代：20 代 3 名、30 代 4 名、40 代 1 名          |
|   | 地域：愛知 6 名、三重 1 名、静岡 1 名                |
|   | 校種：小学校 4 名、中学校 1 名、高等学校 2 名、特別支援学校 1 名 |

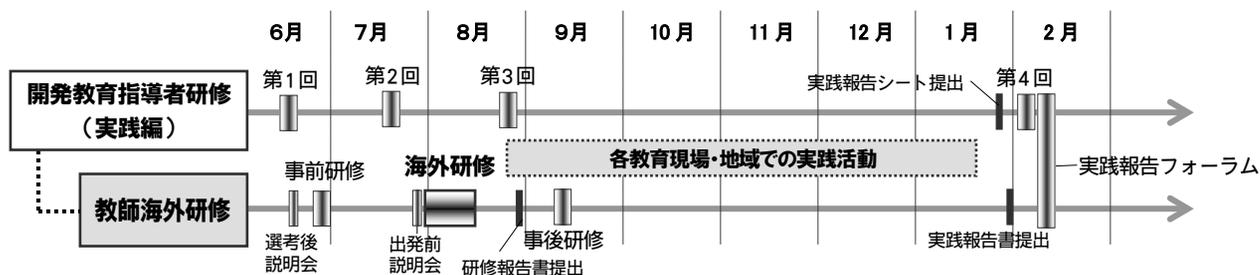
## パラグアイ派遣受講者および同行者

No.	名前	所属先	教科等	地域
1	安藤 理恵	名古屋市立北高等学校	英語 1,2年	愛知
2	市江 文奈	大同大学大同高等学校	英語 2年	愛知
3	児玉 やこ	弥富市立弥富北中学校	国語 1年	愛知
4	笹ヶ瀬 菜生	浜松市立北浜東小学校	全科 4年	静岡
5	清水 歩美	桑名市立久米小学校	全科 1年	三重
6	田原 浩美	愛知県立名古屋特別支援学校	全科 6年	愛知
7	村田 義剛	蟹江町立新蟹江小学校	全科 6年	愛知
8	油浅 重里	春日井市立鳥居松小学校	全科 6年	愛知
9	倉坪 久美	JICA中部 市民参加協力課	業務調整	愛知
10	堀川 絵美	NIED・国際理解教育センター	ファシリテート	愛知

## ● 研修全体のスケジュール

### (1) 研修全体の流れと研修・説明会の日時・場所等

次のような年間を通じた流れで、開発教育指導者研修（実践編）および教師海外研修の各研修・説明会等の日時・場所等は、下表のとおり行った。



各研修・説明会等の日時・場所等

現地研修に向けた準備  
現地研修  
実践準備  
実践  
発表

回	日時	場所	内容（予定）	
指導者研修 第1回	6月11日（土）13：00～17：00 ～12日（日）10：00～15：00	JICA中部	●「開発教育・国際理解教育がめざすもの」をテーマに参加型学習を行います。	
パラグアイ エチオピア 選考後説明会	6月12日（日）15：30～17：30	JICA中部	●出発準備や研修について説明し、質問にお答えします。 ●参加者同士が知り合う機会とします。	
パラグアイ エチオピア 事前研修	6月25日（土）13：00～17：00 ～26日（日）10：00～15：00	JICA中部	●海外行程の説明、訪問先の情報提供、渡航手続きなどを行います。 ●チームとしての現地研修の目標の共有、情報収集の方針、現地での交流の準備、役割分担について参加型で確認します。	
指導者研修 第2回	7月9日（土）13：00～17：00 ～10日（日）10：00～15：00	JICA中部	●「開発教育・国際理解教育にできること」をテーマに参加型学習を行います。	
パラグアイ	出発前説明会	7月24日（日）13：00～18：00	JICA中部	●渡航の最終確認、チーム内の各種調整を行います。 ●最後に立食による結団式を予定しています。
	現地研修	7月25日（月）～8月6日（土） （13日間/現地9日間）	アスンシオン ほか	●「持続可能な開発」をテーマに、JICA等のプロジェクト先、都市や農村を訪れます。 ●気づきを共有し、お互いから学びあう時間を多く設けます。
エチオピア	出発前説明会	8月5日（金）13：00～18：00	JICA中部	●渡航の最終確認、チーム内の各種調整を行います。 ●最後に立食による結団式を予定しています。
	現地研修	8月6日（土）～8月17日（水） （12日間/現地10日間）	アディス アベバほか	●「持続可能な開発」をテーマに、JICA等のプロジェクト先、都市や農村を訪れます。 ●気づきを共有し、お互いから学びあう時間を多く設けます。
指導者研修 第3回	8月27日（土）13：00～17：00 ～28日（日）10：00～17：00	JICA中部	●「開発教育・国際理解教育のすすめかた」をテーマに参加型学習を行います。	
パラグアイ エチオピア 事後研修	9月10日（土）13：00～17：00 ～11日（日）10：00～15：00	JICA中部	●海外での気づきや資料を教材化し、授業で実践するためのプログラムについて考え合います。	
9月～1月：各自、学校の授業などで実践！				
指導者研修 第4回	2月11日（土）10：00～18：00	JICA中部	●「開発教育・国際理解教育をつなげよう」をテーマに実践の共有およびフォーラムの準備を行います。	
実践報告 フォーラム	2月12日（日）10：00～16：30	JICA中部	●指導者研修および教師海外研修受講者による、一般向けの実践報告等を行います。	

研修全体の内容

期日	内 容	受講者
6/11-12	開発教育指導者研修（実践編）第1回の実施	参加
6/12	選考後説明会の実施	参加
6/25-26	教師海外研修 事前研修の実施	参加
7/9-10	開発教育指導者研修（実践編）第2回の実施	参加
7/24	教師海外研修 出発前説明会の実施	参加
8/5	教師海外研修 現地研修	参加
7/25~8/6	◇7/25 中部国際空港発 ◇7/27 パラグアイ着 <現地滞在9泊9日> ◇8/4 パラグアイ発 ◇8/6 中部国際空港着	
8/6~8/17	◇8/6 名古屋駅発 ◇8/7 エチオピア着 <現地滞在9泊10日> ◇8/16 エチオピア発 ◇8/17 名古屋駅着	
8/27-28	開発教育指導者研修（実践編）第3回の実施	参加
8/31	ウェブ一般公開 最終報告書へ ← 受取・まとめ	研修報告書の作成・送付
9/10-11	教師海外研修 事後研修の実施 教材化、授業プログラム検討	参加
9月~1月		教育実践
1/31	受取・まとめ	実践報告書の作成・送付
2/11	開発教育指導者研修（実践編）第4回の実施	参加
2/12	実践報告フォーラムの実施	報告（発表）
2~3月	研修受講者へのアンケート実施	回答
	教師海外研修報告書の編集	編集への協力
3月下旬	教師海外研修報告書のまとめ・送付	受取・活用